

2026 年 9 月 6 日

主日礼拝

礼拝讃美歌⇒469 番 (MK 姉)

『功なきわれを』

聖書⇒ローマの信徒への手紙 9 章 15~24 節 (KT 姉)

『神はモーセに、／

「わたしは自分が憐れもうと思う者を憐れみ、／

慈しもうと思う者を慈しむ」

と言っておられます。従って、これは、人の意志や努力ではなく、神の憐れみによるものです。聖書にはファラオについて、「わたしがあなたを立てたのは、あなたによってわたしの力を現し、わたしの名を全世界に告げ知らせるためである」と書いてあります。このように、神は御自分が憐れみたいと思う者を憐れみ、かたくなにしたいと思う者をかたくなにされるのです。ところで、あなたは言うでしょう。「ではなぜ、神はなおも人を責められるのだろうか。だれが神の御心に逆らうことができようか」と。人よ、神に口答えするとは、あなたは何者か。造られた物が造った者に、「どうしてわたしをこのように造ったのか」と言えるでしょうか。焼き物師は同じ粘土から、一つを貴いことに用いる器に、一つを貴くないことに用いる器に造る権限があるのではないか。神はその怒りを示し、その力を知らせようとしておられたが、怒りの器として滅びることになっていた者たちを寛大な心で耐え忍ばれたとすれば、それも、憐れみの器として栄光を与えようと準備しておられた者たちに、御自分の豊かな栄光をお示しになるためであつたとすれば、どうでしょう。神はわたしたちを憐れみの器として、ユダヤ人からだけでなく、異邦人の中からも召し出してくださいました。』

(祈り)

聖書⇒ゼカリヤ書 9 章 9~10 節 (KH 姉)

『娘シオンよ、大いに踊れ。

娘エルサレムよ、歓呼の声をあげよ。

見よ、あなたの王が来る。

彼は神に従い、勝利を与えられた者／

高ぶることなく、ろばに乗って来る／

雌ろばの子であるろばに乗って。

わたしはエフライムから戦車を／

エルサレムから軍馬を絶つ。

戦いの弓は絶たれ／

諸国の民に平和が告げられる。
彼の支配は海から海へ／
大河から地の果てにまで及ぶ。』

礼拝讃美歌⇒505 番
『主は王なり』

聖書⇒ネヘミヤ書 8 章 10d 節 (ES 姉)
『今日は、我らの主にささげられた聖なる日だ。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 16 章 24 節
『今までは、あなたがたはわたしの名によっては何も願わなかった。
願いなさい。そうすれば与えられ、あなたがたは喜びで満たされる。』

聖書⇒フィリピの信徒への手紙 4 章 6~7 節
『どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。』

(祈り)

礼拝讃美歌⇒476 番 (KH 兄)
『いかなる恵みぞ』

《パン裂き》

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 11 章 23~29 節 (KH 兄)
『わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。従って、ふさわしくないままで主のパンを食べたり、その杯を飲んだりする者は、主の体と血に対して罪を犯すことになります。だれでも、自分をよく確かめたうえで、そのパンを食べ、

その杯から飲むべきです。主の体のことをわきまえずに飲み食いする者は、自分自身に対する裁きを飲み食いしているのです。』

(式)

礼拝讃美歌⇒142 番
『渡されたもう』

《建徳》

聖書⇒ヨハネによる福音書 1 章 17 節 (YN 兄)

『律法はモーセを通して与えられたが、恵みと真理はイエス・キリストを通して現れたからである。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 9 章 28~29、34、41d 節

『そこで、彼らはののしって言った。「お前はあの者の弟子だが、我々はモーセの弟子だ。我々は、神がモーセに語られたことは知っているが、あの者がどこから来たのかは知らない。」

彼らは、「お前は全く罪の中に生まれたのに、我々に教えようというのか」と言い返し、彼を外に追い出した。

だから、あなたたちの罪は残る。』

聖書⇒ヨハネの黙示録 15 章 2~3a、5~8 節

『わたしはまた、火が混じったガラスの海のようなものを見た。更に、獣に勝ち、その像に勝ち、またその名の数字に勝った者たちを見た。彼らは神の豎琴を手にして、このガラスの海の岸に立っていた。彼らは、神の僕モーセの歌と小羊の歌とをうたった。

この後、わたしが見ていると、天にある証しの幕屋の神殿が開かれた。そして、この神殿から、七つの災いを携えた七人の天使が出て来た。天使たちは、輝く清い亜麻布の衣を着て、胸に金の帯を締めていた。そして、四つの生き物の中の一つが、世々限りなく生きておられる神の怒りが盛られた七つの金の鉢を、この七人の天使に渡した。この神殿は、神の栄光とその力とから立ち上る煙で満たされ、七人の天使の七つの災いが終わるまでは、だれも神殿の中に入ることができなかった。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 1 章 17 節

『律法はモーセを通して与えられたが、恵みと真理はイエス・キリストを通して現れたからである。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 1 章 35~40 節 (KH 兄)

『その翌日、また、ヨハネは二人の弟子と一緒にいた。そして、歩いておられるイエスを見つめて、「見よ、神の小羊だ」と言った。二人の弟子はそれを聞いて、イエスに従った。イエスは振り返り、彼らに従って来るのを見て、「何を求めているのか」と言われた。彼らが、「ラビ——『先生』という意味——どこに泊まっておられるのですか」と言うと、イエスは、「来なさい。そうすれば分かる」と言われた。そこで、彼らはついで行って、どこにイエスが泊まっておられるかを見た。**そしてその日は、イエスのもとに泊まった。**午後四時ごろのことである。ヨハネの言葉を聞いて、イエスに従った二人のうちの一人は、シモン・ペトロの兄弟アンデレであった。』

聖書⇒ガラテヤの信徒への手紙 2 章 19~20b 節

『わたしは神に対して生きるために、律法に対しては律法によって死んだのです。わたしは、キリストと共に十字架につけられています。生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。』

礼拝讃美歌⇒234 番 (KH 兄)

『生くるかいもなしとひとり』

《建徳要旨》